

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700269		
法人名	㈱ケアネット		
事業所名	グループホームみやこ 緑が丘館		
所在地	岩見沢市緑が丘4丁目221-70		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&amp;JigvosyoCd=0175700269-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&amp;JigvosyoCd=0175700269-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年2月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩見沢市郊外の住宅地に当ホームはあり、自然豊かな場所です。利用者さんが生き生きと過ごすことが出来るよう入居前よりご本人、ご家族と面談を行い、アセスメントを行い、その方の気持ちに沿ったケアが出来るよう取り組んでいます。そしてその方にとって当ホームがその名の通り「住めば都」となるよう、住み替えによるリロケーションダメージを緩和できるように取り組んでおり、その方の昔の情報等を取り入れる事で馴染みの関係づくりが早期に構築出来るよう取り組んでいます。当ホームはスタッフと共にスタッフの子ども時々ホームで過ごします。下は0歳から上は小学生の子までと年代は様々ですが利用者さんの子供たちを見る目は優しく、(時には厳しくもあり。)互いに色々な相乗効果が見られます。一緒に遊んだり、時には家事と一緒にゆったり教えてあげたり…。和気あいあいとても賑やかなホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境：緑多い公園を見下ろす環境に恵まれ、民家の現状を活かし、急な階段や段差等を、敢えて「強み」にして機能的活用をはかっている。  
2)職員の態度・姿勢：話を聴き、尋ね、理解して、応える丁寧さと、優しさで、半数が90代の高齢者の支援に努めている。  
3)利用者・家族の満足：家族アンケートやアウトカム結果は職員の態度や姿勢に好感し、アットホームな運営に満足している。  
4)運営推進会議の開催状況：定例的に開催。理解ある地域役員・民生委員・行政・包括支援C・家族が参加して詳細な運営データを基に論議を運営に活かしている。  
5)地域との連携・協力：数町内会を含む地域に協力と理解を得て、地域の行事への参加や共に協力してホームの役割理解に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念以外にスタッフ全員で理念というものを改めて学び、利用者本位であり、かつ地域に根差したサービスであることを念頭に置いた理念を作り、それを共有しサービスに活かしている	『ゆっくり、楽しく、一緒に』を理念に「共にする生活を尊び、負担を軽くし合える支援を行う」を基本方針にして、アットホームな環境や笑いの絶えない日々を過ごすよう実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(お祭り、食事会)等には積極的に参加し、交流を深めようと努力している。掃除や町内会総会などは体調等もあり、利用者ではなくスタッフが参加している事が多い	理解ある町内会の役員に支えられ行事・催事を共にし、交流と協力をすすめるホームの活動を理解されるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年は行っていないが市の認知症サポーター養成講座の講師(キャラバンメイト)に登録している職員がおり、要請があれば協力している。又他事業所と協力し地域に向けた研修会も予定している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの日々の様子やホームの行事、困難事例への取り組み等を会議内で報告し、話し合いを行っている。又地域の方からの情報や意見を取り入れ、サービス向上に活かしている(地域との関わりも含め)	会議は定例に開催。理解ある地域役員・行政と関連・民生委員、家族の参加を得て、運営状況の資料を提示して意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居や退去に関する質問や相談、ケアサービスにおける困難事例等において介護保険課はもとより、諸制度(生活保護等)に関わる部署の方にも小まめに連絡を取っている	行政担当課・包括支援C等の積極的な支援があり、困難事例・入退所の相談支援、生活保護制度上の取り扱いなど連携を密にした活動に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での研修において新人研修時より、身体拘束について学び、実践の中で理解を深めている。	拘束の多様な対応事例を学び、具体的対処の研修などを重ねて利用者を損ねない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修において『虐待』について学び、自身の毎日の行動においても振り返りを行い防止に努めている。また勤務状態の見直しを行い、スタッフ自身が心身の健康な状態でケアに携わる事が出来るよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活支援事業や成年後見制度を必要としている方はおられないが研修において学び、必要な書類の用意や関係部署についての相談も随時行っているよう検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において主にご家族に対して説明する事が多い。契約書等を読み上げる中で小まめにご家族に疑問点などが無いか確認し、説明している。後日、契約内容に変更が生じ取り直しとなる場合でも十分に説明しご納得頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、個別に要望をお聞きすることもある。面会が少ない方においてはなかなかその機会がなく、今後見直ししていく。また外部者へ意見要望を表せる機会としては重要事項説明書において連絡先などを表示している(国保連等)	月刊広報誌、担当者の手書き便り、推進会議の報告など利用者の状況やホームの運営状況を報告して活動の周知に努めて、家族の意向を運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議の他、系列ホームとのスタッフとも話し合いを行い、よりよい運営が出来るよう取り組んでいる	管理者は職員相互の理解と協力を大切に、親しく定例会議や課題解決協議に、各自が経験・知識・技術を披露して意見を反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課をおこない、職員の勤務実績を把握し、評価の上、各自がやりがいを持って働く事が出来るよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を基に本人の力量に応じ外部研修への参加を呼び掛けたり、ホーム内においては個別ではないが研修を行っている。今後はその力量に応じた研修を個別もしくは少人数制(経験年数や力量に合わせて)で行うことも検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者等に呼び掛けし、研修を行う中でスタッフ同士や管理者同士の交流が少しずつ出来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の「幸せ」につながるような日常生活を営めていると思われる。又、スタッフに対し、不満や要望を我慢することなく申し付けて下さることは信頼関係につながっていると思われる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で情報をお聞きするだけではなく面会の度にご家族とお話する機会を小まめにもち、関係づくりに努めている(世間話なども含めて)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族それぞれのニーズを把握したうえで関係機関と連携しサービスの検討をしている。(他のサービスを併用した対応事例は、現状ではない)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり、楽しく一緒にの理念に沿って日々を一緒に過ごせるようスタッフと利用者が助け合って生活できるような関係づくりをしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙を通して状況報告などをしたり行事などに参加していただいたりしてよい関係を築く努力をしていると思う		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・家族との外出、電話での会話等なじみの人との関係が切れないように協力をする	90代の高齢者も多く、各自の思いで、固有な生活関係(調理師・バーテンダー等)を大切に把握して、それぞれの関係性に沿うよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の人間関係をほぼ完全に良好な状態につなげていくことについては改善の余地があるが、気の合わない方同士の食事の時間をずらしたり、陰悪な空気の際はスタッフが介入し話題の転換を図るなど行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族から、別の方の件で(退所された方の配偶者や親せき、ご家族の方ご本人の事)で入所の相談やそのほか介護サービスの事についてご相談を受け、支援につながるケースもある			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思をうまく表現することが出来なくなっているが、本人の様子(表情、言動)をみながらその方がどのように過ごしていきたいのかを掴み取れるよう努めている	個々の実績や生活経験など日常の話や態度などに触れて、その意向や想いを忖度して受け継ぎ可能な支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのように過ごしたかなどを本人の何気ない話からピックアップしたり、ご家族とのお話の中で情報収集を常に心がけている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方についてはある程度把握している。有する力については持っていた力を活かしてさらにできている部分も増えてきていることを発見することが出来ている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族とお話する機会を持ち本人にどうなってほしいのかという事について意見をお聞きするようにしている(あまり意見を言われぬ方が多い)	職員相互の観察や見識、訪問看護C、かかりつけ医等の報告も踏まえて介護計画・変更を企画し、家族の同意を得て計画を策定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプラン内容に沿って小さな気づきや普段と違う様子を記入しそれらの情報をスタッフ同士共有し、会議などで介護計画の見直しを行っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の時間を本人のニーズに合わせて他者とずらすなどグループホームならではの対応を行っている。又帰宅願望のある人の外出につきそう、なじみの場所へ共に出かけるなど小まめな対応も行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や近所の方のご協力で避難訓練や運営推進会議への参加や、地域のお祭りなどに利用者さんとスタッフが一緒に楽しみながら参加させていただくことが出来ている。今後も継続していきたい			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護と往診を利用し医療面でアプローチをしていただいている。又その結果などをご家族に口頭やお電話、月ごとのお手紙などでお伝えしている。急変時も常にかかりつけ医と連携をとれる体制になっている	利用者各自のかかりつけ医を軸に支援すると共に、定期的な訪問看護ステーションの意向を活かした支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護の導入を行い、日常の健康チェックの他、医療面におけるアドバイスをしてもらい、利用者さんの健康管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療を受ける事が出来るよう小まめに病院へ足を運んでいる。又、病院関係者とも積極的にご家族を交えてアプローチを行い、情報交換を行い早期退院につながるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際今後の方針について説明し同意を得ている。重度化した場合はその都度ご家族にお話し、ご家族の意思・意向を確認している	契約段階で重度化や終末対応指針を利用者・家族と確認し、具体的な状況に応じて、看取りに近い事例等を医療機関等と支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルのファイルを常に手に取れるところにおいてあり、確認をしながら対応できるよう急変時に備えている。又即時に救急搬送や受診に対応できるよう、個人の既往歴や内服薬を記入したファイルを用意している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時想定での避難訓練を年2回、夜間緊急招集訓練を行っている。又模擬施設における訓練も年に1回受けている。火災以外の想定における訓練は出来ていない為今後取り組んでいきたい	地域の協力と理解を得て想定災害訓練の実施に努め、備蓄等の配慮も整えている。	災害対応には限りがなく、今後も地域との協力と役割理解、防災情報の収集と具体的対応について、さらなるご検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しそれぞれの性格や身体の状態に配慮した対応を行っている	利用者の固有な生活歴等を考慮し、誇りや固有性を尊び、日常の会話や言葉かけについて留意した対応に真摯に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活をする上で自分の意思で自己決定できるように促し、動けるような環境づくりを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の表情を見ながらご本人のペースに合わせて職員が見守りながら希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用し、本人の希望に沿ったおしゃれが出来るよう支援している。又好みの服を着る事が出来るよう声かけしたり、用意を手伝うこともある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生会の時は好みを考えてメニューを考えているが毎日の食事ではすべて好みどおりにしていないと思う。通常の食事風景を見ながら今後も買い物等で旬のものを取り入れるなどして検討していく	地元の旬の素材を求め、楽しく、美味しい食事作りに努めて職員は調理を覚え、工夫を重ねて利用者が喜ぶ、変化に富む食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては一人ずつ1日トータルで牛乳やジュース等好きなものを取り入れつつ支援で来ていると思う。栄養のバランスを取るとは難しいが今後も検討していきたい		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは特定の人のみの介助となっており、全ての人の導入は難しい。朝夕の固定のケアでは出来ていると思う		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々には排泄パターンを常に見直ししながら声かけや誘導などの介助を行えていると思う。体調により変化も出てくるので小まめに見直ししている	日常のバイタルチェック記録、心身の状況確認等に合わせて排泄パターンを把握し、適切な声かけ・誘導などでトイレ排泄や自立的な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫は個々に出来ていると思う（飲むヨーグルトや青汁、冷水）運動への働きかけについては現在出来ていないので今後も検討していく		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体の清潔保持が中心となりがちで、楽しむ入浴となるよう今後も取り組んでいきたい。本人の希望時間に応じて全員ではないが夜間入浴も取り入れている。	タイミングや気分を捉え、個々の清潔保持などを軸に納得ある入浴を促し、楽しみを実感できるよう促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は過ごしやすい様に座るところを工夫して休息がとれる環境にしていると思われる。夜間に関してはゆったりとした気持ちで休息の時間に入る事が出来るよう関わりを個々に検討している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	のみ忘れや誤薬にならぬような工夫（チェックシートの活用）を行い、体調の変化等により薬の変更があった場合にはすぐ確認出来るようホーム日誌の他、薬のファイルを確認するよう周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調や意欲に合わせて個々の支援に取り組んでいる。（促しての参加だけでなく、自主的に～したい、これやりたいと思える様な環境づくりも行っている）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て散歩にお誘いしたり体調を見て外出を、出来るだけ取り組んでいる。希望が出た際はホーム内の状況にもよるが出来るだけ早期に希望がかなうよう支援している。又ご友人と外出を楽しむ利用者さんもおられる	極近隣の公園への散歩を季節、個々の状況に応じて促し、買い物、ドライブなどホームの生活に変化を感じ得るよう、外出の機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持していることを確認し、外出時にご本人がそのお金を使用する際には見守りの中で購入できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい要望があれば、電話をお貸しするだけではなく、番号を押したりつないだりという介助も行い、対応している。(つながりが切れぬよう)また手紙については利用者さんを書くことを声かけしたり、読むことはできる利用者さんもいるのでご家族にお手紙をお願いする事も多い		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭に近い環境を作るよう心掛けている。場所表示も簡潔に矢印等も用いながら行い、夜間について照明のつけ方で行動に移すことが出来るよう取り組んでいる。また行事関連や季節を表すもの(雛人形やこいのぼり等)もその季節に合わせ飾っている	居間は各自が横臥してテレビが見える、無理なく超高齢者の心身の状況に応じた居間を作りや季節の飾りで雰囲気高めめるなど工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間だけではなく、食堂などを用いそれぞれの利用者さんが過ごしやすい空間づくりに努めている。今後は2階の応接間や1階廊下等も活用し取り組んでいきたい		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れている馴染みのものをご用意して頂く事が多い(家具、時計、布団、飾りなど)又自宅に居た際にどちらの方に入り口やトイレがあった等の情報を基に本人が自主的な行動を取りやすく出来るよう配慮している	家族と共に馴染み多い家具備品・飾り・写真・テレビなどの用意と心身の状況に応じた配慮に工夫した支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『狭い』という空間を利用し、利用者さんが手すりや壁などに触れたりつかまるなどして出来るだけ自分で安心して動く事が出来るよう工夫している。夜間についても迷わぬようトイレなど比較的移動頻度が高い方向は明るめに、逆に利用頻度が低めの階段は暗くするなどして対応している		